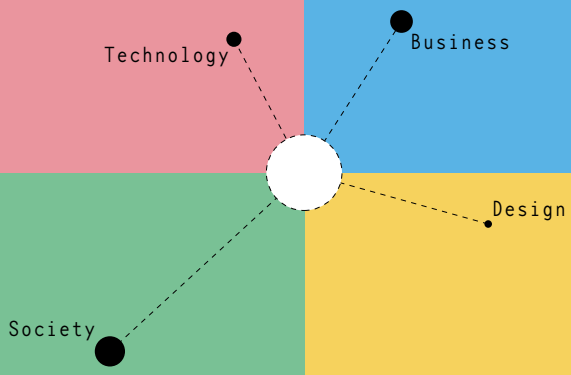
後藤滋樹

ごとう・しげき：早稲田大学 理工学部 情報学科教授。MINC理事、APAN副議長などアジア太平洋のインターネット界で活躍している。
goto@goto.info.waseda.ac.jp



インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

どこの馬の骨

他人か友達か

日本も競争社会になりつつある。護送船団が崩れて、会社と会社が競争する。その会社の中では同僚どうしが競争相手となる。せち辛い世の中だ。

その競争社会の本家の米国では、義理も人情のカケラもないのだろうと思ってみると、意外なほど友達を大切にする。ただし、単なる知り合いと本当の友達というのを区別している。

たとえば紹介状というものがある。日本の場合には、ちょっとした知人から頼まれても簡単に紹介する。紹介状を書く場合には紋切り型の内容で済ますことが多い。それでも紹介したことになる。紹介状の内容は問わず、形式が大切である。米国で紹介状というと、その人の欠点を知っているくらいに親しくないと書けない。米国の大学院へ入学するときの推薦状には「本人の欠点も書くこと」と要項に明記してある大学がある。こうなると、うかつに推薦状は書けない。先生に推薦状を書いてもらおうと頼みに行って、断られる学生もいる。

米国の社会では、人間を2種類に分けているようだ。友達と、どこの馬の骨かわからない他人である。他人から頼まれても紹介状は書けない。

単独では存立できないベンチャー企業

競争社会のメッカのようなシリコンバレーでも友達が大切である。いわゆるベンチャー企業というのは小規模であり、何らかの特化した技術を売り物にする。たとえば無線LAN用の半導体チップを製造する会社は、そのチップを使ってカードにする会社と組む必要がある。たぶんアンテナ製造会社とも仲良くするだろう。

このようなビジネスの関係は、米国ならばさぞかし契約ベースなのだろうと想像すると、友達関係で進む場合も多いという。サンフランシスコのJETRO(日本貿易振興会)に長年勤務された福田秀敬氏(経済産業省)によると、会社どうしが組む場合に最初からNDA(Non Disclosure Agreement:守秘義務契約)が必要だというのでは、いかにも面倒くさい。友達ベースの場合はそのような契約は後回しにして、とにかく話を先に進めるという。

孤独なベンチャー企業というものは存在しない。シリコンバレーの激しい競争の風景の中でも友達の関係が意味を持っている。

友人はシグナル

私には、ベンチャー企業をめぐる資金の動きはよくわからない。ただし、この分野の知人・友人の動きを見ていると、私なりに観測ができるのでおもしろい。

上の私の経験的とも言える直観が、最近の経済学の本で裏付けられている。以前の本欄でも紹介した青木昌彦先生の『比較制度分析に向けて』(NTT出版 2001)を参考にすると次のように説明できる。

ベンチャー企業に資金を提供するキャピタリストは、成功する企業を見抜かないとイケナイ。ただしバイオ企業とIT企業の両方を見るような専門性を身に付けるのは大変だ。しかし、うまい方法がある。技術者を観測すればいいのだ。技術者は自分の勤めるベンチャー企業が失敗すると思えば、その企業を辞めるだろう。技術者は、その企業に命を懸けているわけではないが、給料を懸けている。

つまりキャピタリストは技術者を見張っていればいい。辞める技術者がシグナルを発するというわけだ。知人・友人の動きで業界を観測できるというのは、これである。

始まりと終わり

青木先生の説で重要なのは、技術者が企業を辞めることができるという点である。ここで技術者が流動的でいられるのは、ベンチャー企業の競争が反復して行われるからだ。そのような再度のチャレンジを許しているのは資金を提供するキャピタリストであるから、技術者とキャピタリストとは相互に助け合っているようなものだ。

現在の日本の社会は、新しいことが始まるのを待っているようなところがある。ところが、新しいことを始めるためには、古いものを終わりにしないとイケナイ。その仕組みが欠如している。たとえば銀行が廃業するときのルールを明確にする必要がある。電話会社が事業をやめたり、大学だって退出したりする例が出てくるだろう。

始まりがあれば終わりがある。企業も起業して廃業がある。技術者も就職すれば退職もする。そのようなサイクルが円滑に動けば社会が活性化するはずだ。競争社会には、せち辛い側面もあるが、友達が大切な社会であり、何よりもお互いの信頼関係が基本にある。さらに言えば、友達というのは、お互いに補い合う場合に特に有意義な存在となる。

インターネットマガジン／株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

［インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ］ ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D（株式会社インプレスから分割）が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン　バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

http://i.impressRD.jp/bn

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容（技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど）は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など）が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレスR&D）、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D（当時は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先
株式会社インプレスR&D
All-in-One INTERNET magazine 編集部
im-info@impress.co.jp

Copyright © 1994-2007 Impress R&D, an Impress Group company. All rights reserved.